

大久保病院だより

No. 31
平成30年
11月2日

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078(935)2680 FAX078(935)2684



9月から病衣が新しくなりました。ベージュ色の男女共用の病衣です。パジャマと浴衣の2タイプがあります。見慣れないうちは違和感がありましたが、ふんわりシャボン玉のような柄にいつの間にか癒しを感じるこの頃です。



柄アップ



病衣モデルは地域連携室の岩本です

編集後記

病院駐車場のさつきの植え込みに埋もれていた芙蓉が品位ある花をつけています。『繊細な美』の花ことばどおりの優しさです。さて地域連携室は室長の古谷医師以外は女性スタッフばかりでしたが、8月から頼もしい男性スタッフが入りました。前方広報・渉外を担当します「岩本」と申します。休日にはドライブと足つぼマッサージが楽しみのようです。す

にご挨拶に伺い始めておりますのでよろしくお願いたします。



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス ②のりば 19「山手台」行き ③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

特定医療法人 誠仁会
大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seijinkai.or.jp/okubo/index.html>

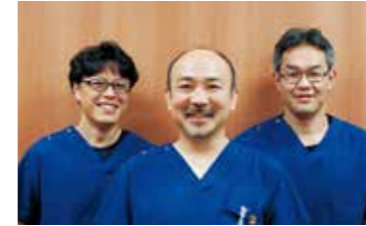
大腸がんの治療について



外科部長 塚本 潔

大腸がんは早く治療すれば比較的治りやすいがんです

大腸がんは近年増加傾向にあり、現在日本の部位別予測がん死亡数では男性で3番目、女性で最も多いがんです。大腸がんの予後は比較的良く早期に治療をすればかなり高い確率で治るため早期発見・早期治療が何よりも大事です¹⁾(表1)。症状は出にくいこともありますが一番多い自覚症状は血便です。血便は痔などの良性疾患でも見られますが自分で判断し放っておくとがんが隠れていることもあるので症状があればすぐに受診しましょう。



山岸医長 塚本部長 山下医長

近年普及している腹腔鏡手術とは?

腹腔鏡と呼ばれるカメラを小さな穴から挿入し、映し出された映像を見ながら手術をする方法です。開腹手術とは到達方法が違っただけで、がんを切除する範囲や方法は基本的に同じことをします。開腹手術に比べて傷が小さく術後の痛みが少ないこと、術後の回復が早く入院期間が短いことなどが最大のメリットです。様々な臨床試験で安全性(術後合併症の程度)と根治性(がんの再発率や死亡率など)が開腹手術と同等・あるいは優れていることが検証され、2002年に進行がんに対しても保険収載されました。これを受け近年飛躍的に普及し、最近の大腸がん研究会のアンケート調査では大腸がん手術の約7割が腹腔鏡手術で行われており、8割以上の施設が進行がんの標準術式になると回答しています³⁾。一方で高度な技術が必要なことも事実で、安全に手術が行われるために日本内視鏡外科学会が実際の手術技術を認定する技術認定医制度を定めています。

【表1】 がんの5年生存率

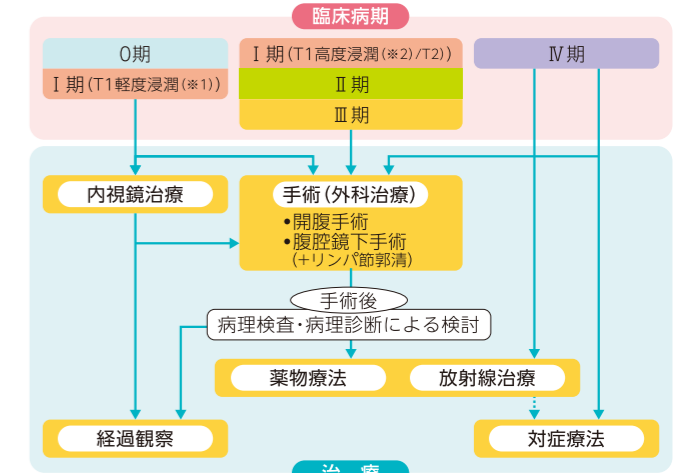
病期(ステージ)	5年実測生存率(%)	5年相対生存率(%)
I期	89.6	97.6
II期	81.7	90.0
III期	77.5	84.2
IV期	19.0	20.2
全体	69.7	76.0

公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計'17」全国がんセンター協議会加盟施設における5年生存率(2007~2009年診断例)より引用

【図1】 大腸がんの治療方針

大腸がんの治療方針は?

一般的にがんの治療では手術、薬物療法、放射線治療が3本柱ですが、大腸がんでも進行度に合わせてこれらを組み合わせて治療が選択されます²⁾(図1)。大腸がんの場合、他臓器に転移していても残さず取ることができるのであれば手術で根治を目指せることもあり、3本柱のうち手術が比較的重要な役割を担っているとも言えます。



*1 軽度浸潤: 粘膜下層に1mm未満で広がっていること
*2 高度浸潤: 粘膜下層に1mm以上広がっていること
国立がん研究センター がん情報サービスより引用

<参考文献>
1) がんの統計'17公益財団法人 がん研究振興財団
2) 大腸がん治療ガイドライン2016年度版 大腸癌研究会編 金原出版
3) 塚本潔, 松原長秀, 野田雅史, 他: 日本における大腸癌に対する腹腔鏡手術適応の現状-第85回大腸癌研究会アンケート調査より-, 日本大腸肛門病学会誌 70:205-213 2017



整形外科「手の外科・外傷センター」について

手の外科・外傷センター長 川西 洋平 医師

当院では、今年度より「手の外科・外傷センター」をオープンいたしました。

扱う疾患はとて多く、当センターのホームページに簡単に説明しておりますのでご覧いただければと思います。ここでは、「なぜ当センターが必要か?」について書かせていただきます。

整形外科は、頭をのぞくほぼ全身の運動器をあつかいますが、すべての整形外科医が、各部位の疾患に対して適切な医療を提供することは簡単ではありません。なかでも手や脊椎の病気の患者さんは、正しい診断や治療を受けられずに複数の医療機関の受診を繰り返していることが多いように思います。実際、脊椎と手の分野には、整形外科そのものの専門医制度とは別に専門医制度が存在しています。残念ながら、手の症状をお持ちの患者さんに対して、手の専門医以外の誤った診療がなされていることがあります。そのような患者さんの

不利益をなくすために当センターを開設いたしました。

また、「なぜ“手の外科センター”ではなく、“手の外科・外傷センター”という名称なのか?」とお思いの方がおられるかもしれません。手の外科で扱う疾患には、骨折や脱臼などのケガ(外傷)が多いため、手の外科の専門医は、手以外の外傷の治療にも長けております。そこで、できるだけ手以外の外傷も包括的に当センターで治療できるように“手の外科・外傷センター”としました。



Post introduction

部署紹介

リハビリ
テーション科



当科は、理学療法士32名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、助手3名が在籍する大所帯の部署です。リハビリテーション科では、外来・入院の方に健康で豊かな生活が送れるように、お手伝いをさせていただいております。リハビリは、「痛い」「苦しい」というイメージがあるかもしれませんが、患者さんの笑い声も多く聞かれ、楽しい雰囲気の中でリハビリが行われています。外来通院中や入院中の患者さんの日常生活・余暇活動への復帰に向けたリハビリに加えて、スポーツ障害に対するリハビリも行っております。

また、言語聴覚士による嚥下造影検査を行っており食物の飲み込みや発語に対するリハビリも行っております。日頃より科内では頻りに勉強会を開催し、院外からの高い専門性を備えたスタッフによる指導を受けるなど、切磋琢磨しながら技術の向上に努めております。

当院でのリハビリをご希望の際は主治医に、是非ご相談ください。

手術室増設に伴う病院改修



手術件数増加に伴い手術室を増設することになりました。この増設工事を行うことで近隣住民の方、また入院中の患者さんには大変ご迷惑をおかけしております。手術室増設工事は年内いっぱいかかる予定です。

そのため、4階にありました特殊浴室は、北館1階に移設いたしました。以前より広い更衣室とリフト浴室、またデイサービス時に使用しておりました車いす使用の特殊浴室と、複数台の浴室をそろえることができました。今後も利用される皆さんにとって、快適かつ安心できる療養環境を提供できるように検討を重ねていきたいと思っております。



ふれあい看護

7月30日、大変暑い中、高砂高校、播磨南高校、明石南高校から9名が「ふれあい看護」へ参加しました。今年は男子学生の参加もあり、看護や医療への強い関心がうかがえました。

学生の皆さんは、例年のように制服に着替え、高校

生であることが嘘のように看護師の制服がピッタリと決まります。手洗い研修や病院の中での安全について学んだあとに、病棟と手術室に行き、体験をしました。看護師のコミュニケーション能力について驚き、食事のさせ方の看護に感心するなど、大いに看護に触れる経験ができたと思います。

最初はぎこちなかった学生の皆さんも、患者さんの笑顔と共に次第に笑顔が多くなった1日でした。



外来ボランティア

9月より外来案内ボランティアの活動を始めました。

毎日ではありませんが若草色のエプロン(大久保病院ボランティアのワッペンがついています)を着用し、正面玄関周辺で自動精算機の案内を中心に、車いすの空気入れや駐車場の案内など、少しずつ活動を広げています。外来ボランティア希望の方は看護部にお申し出ください。

